

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006 年 11 月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目 次	Pages
➤ 事務局活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	5
➤ 会議・イベント案内	6
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	6
➤ 会員募集中	7

巻頭書記

現在 JRRN 事務局では、昨年 3 月に発刊した「河川環境再生の手引き ver.1」後続編の作成作業を、韓国 KRRN・中国 CRRN 関係者と協力して進めております。本作業過程においても、国内外の素晴らしい再生事例や関連情報が多く蓄積されますので、JRRN ホームページやニュースレターを通じ、随時これら情報を国内に還元するよう努めてまいります。

本号では、事務局活動報告として、JRRN 及び ARRN の 2010 年活動計画、及び再生事例紹介ウェブページ内への地図検索機能掲載を紹介しています。また二つの JRRN 会員寄稿記事や会員からご提供頂いた情報を取り上げております。

引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

事務局活動報告(1)

JRRN 及び ARRN の 2010 年活動計画

JRRN 及び ARRN が設立されてから 4 年目となります。2010 年の活動計画をご紹介します。

昨年 9 月末に開催された「第 4 回 ARRN 運営会議(韓国・ソウル市)」において、日中韓の関係機関により 4 年目の活動計画を協議し、ARRN 全体として、また各国支部組織である各 RRN として実施する活動内容を定めました。(次ページの一覧表参照)

設立当初より継続している国際フォーラム開催や再生事例整備、また河川再生手引きの充実化等を軸に活動しながら、活動成果を出版物や各種行事での公表など、できるだけ目に見える形で社会に蓄積し

ていきたいと考えています。

本ネットワークが目指す河川再生に関わる国内外の情報循環と人材交流の基盤構築に向けては、会員皆様が様々なお立場で取組む河川再生活動の情報提供が不可欠です。JRRN は、これらを国内関係者にスムーズに行き渡る橋渡し担うとともに、同時に、日本の優れた経験をアジアに発信していく役割も務めてまいりますので、本年の JRRN 及び ARRN の諸活動に対する JRRN 会員皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(JRRN 事務局 和田彰)

活動種別	活動計画 (実施担当者: 赤字ARRN, 茶字JRRN, 青字CRRN, 緑字KRRN, その他)
1. 情報共有基盤整備 (ウェブサイト)	- ARR N ウェブサイト再設計 (組織概要、入会方法、関連ニュース、技術情報、ニュースレター、年次報告書等掲載) (ARRN) - ARR N ウェブサイトから各RRN ウェブサイト (C, K, J) 及びNon-RRN会員相互リンク (ARRN) - JRRN日英版ウェブサイト利便性向上 (JRRN)、CRRN及びKRRNウェブサイト運用開始 (CRRN, KRRN) - 各RRNウェブサイト内に国内関連情報、河川再生事例等の蓄積・継続更新(KRRN, CRRN, JRRN)
2. 情報発信・普及 (ニュースレター・メルマガ等)	- 四半期毎に配信(3月、6月、9月、12月/2010年) (ARRN) - JRRN ニュースメールのARRN関係者向け毎月テスト配信 (ヘッドラインのみ) (ARRN) - 週二回の会員向けニュースメール配信、毎月のニュースレター発行 (JRRN)
3. 再生事例蓄積・普及 (データベース・toolbox)	- 国内の河川再生事例情報の蓄積及び普及(KRRN, CRRN, JRRN) - 海外の河川再生事例情報の蓄積及び普及(JRRN)
4. 再生技術蓄積・普及 (ガイドライン)	- 各国の河川再生に関する既存技術指針類・書籍・経験・教訓等の蓄積及び普及 (KRRN, CRRN, JRRN) - ARR N 河川再生ガイドライン ver.2 作成 (ARRN技術委員会・ARRN)
5. 交流機会提供 (イベント開催)	- 第7回国際フォーラム (2009.9, ISE2010特別セッションとして韓国で開催) 等の行事企画・開催(ARRN/KRRN共催) - 各国・地域でのワークショップ、講演会、セミナー等 の企画・開催(KRRN, CRRN, JRRN) - 「河川環境ミニ講座(年5回程度)」の企画・開催 (JRRN)
6. 技術支援 (研修受入・会員支援)	- アジア諸国の河川再生に関わる団体の研修受入、関連技術情報の提供(ARRN) - 会員への関連技術情報の支援(JRRN)
7. 出版 (書籍出版・翻訳)	- ARR N 河川再生ガイドライン ver.2 発刊 (ARRN)、「河川再生事例集」・「水辺価値啓発書」発刊(JRRN)
8. ネットワーク拡大 (広報・会員増加)	- 国際会議、シンポジウム、意見交換会等でのアジア諸国に対するARRN普及活動 (ARRN) - 欧州及び北米等の河川再生関連機関との交流 (ARRN情報委員会、ARRN) - 各国の河川再生関係機関や個人への各RRN普及 (JRRN, CRRN, KRRN)
9. 組織機能強化 (組織・委員会・事務局)	- 第3回情報委員会、第3回技術委員会開催、第5回運営会議 開催(ARRN)、 - 各RRN事務局の運営基盤強化(要員・資金源確保等)

事務局活動報告(2)

JRRN ウェブサイト内の河川再生事例紹介ページに地図検索機能を掲載

JRRN のホームページ内「日本の水辺」では、日本国内の川や水辺の再生事例に関する写真や事業概要を紹介しています。

河川再生事例の検索機能に、新たに地図検索を追加しました。また、「分類から探す」「地域から探す」とともにトップに掲載することにより、河川再生事例の検索がしやすくなりました(図-1)。



図-1 国内の水辺トップページ

「地図から探す」をクリックすると、河川名または地図上のプロットから事例を検索することができま

す(図-2)。地図を拡大すると、詳細な位置情報を確認することができますので、実際に現地へ訪れる際の参考にしてください。未掲載の事例につきましても、随時地図検索に追加していく予定です。



図-2 地図検索のページ

JRRNでは、今後も見やすく、利用しやすいホームページを目指し、改善を行っていきます。会員の皆さまからのご意見、改善案等も反映していきたいと考えておりますので、お気軽にお寄せください。

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

水辺からのメッセージ No.9

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

芦ノ湖がよく見える関所跡：
国の史跡として手厚く保護される杉並木も江戸時代には伐採も



撮影：2007年8月（神奈川県箱根町）

◆よみがえった“天下の険”（2007年春完成）

関所解体修理の詳細報告書が1983年に静岡県菰山町（伊豆の国市）で発見され、当時の箱根関所の建物や構造物などの全貌が明らかになり、文化庁と国土交通省、神奈川県の実験で復元整備が行われました。

◆公園づくりは“自然”を都市に取り込む隠れた最先端技術

文政9年（1826）に長崎から江戸に向かう中、「江戸参府紀行」という本に、「南の国々から江戸へ行く者は誰でもこの隘路を通らねばならないことになっている。使節の一行三人を除いてみな駕籠を降り、歩いて番所を通らねばならなかった。」などとあります。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

会員寄稿記事 (2)

柿田川、「水」を見つめる。「水」を探る ～第6回柿田川シンポジウムより

財団法人リバーフロント整備センター 生態系グループ 川口 究 (JRRN 会員)

柿田川は、延長1.2kmの狩野川の支川であり、静岡県清水町のほぼ中心部を南北に流れます。富士山の南東の山麓に位置し、富士山周辺で降った雨水や雪解け水が地下水になって湧き出してできた日本最大の湧水河川です。富士山全体の地下水の量は、1日当たり約450万 m^3 とも言われていますが、柿田川にはその約2割にも相当する1日約100万 m^3 が湧出しています。

水質はBOD1mg/L以下（微生物学的にも非常に清澄。細菌数が超純水に匹敵する約 10^3 cells/mL）で安定しており、水温は年間を通じて 15°C 前後、流量も $12 \text{ m}^3/\text{s}$ 前後とほとんど変化がありません。また、土砂生産・運搬・堆積作用もほとんどみられないなど、他の河川では例がないような、極めて安定した環境を有しているといえます。一方、わずか1.2kmの小さな河川にもかかわらず生物種は豊富で、狩野川で確認された動植物の40～60%に近い種の生息が確認されています。



図1. 柿田川上流端付近の景観

(砂を噴き上げ地下水が湧き出す『湧き間』がみられます)

柿田川生態系研究会は、前述のような他では得られない湧水河川「柿田川」についての学問的興味に惹かれた研究者の任意の集まりであり、自然実験的な環境下で、外界の条件と生活史、生物群集、生態

系の構造と機能を明らかにすることを目的に平成12年に発足しました。研究活動以外にも「河川環境保全の観点から、今後の柿田川のあり方を生態系の特性を把握していく中から地域の方々の意見を伺いつつ、ともに見出していく」という設立趣旨に基づき、生態学および河川工学分野の学識経験者、地域住民、行政関係者が自由闊達な意見交換を伺う場としてシンポジウムを毎年開催しています。

2009年11月14日(土)に沼津市の沼津市民文化センター大会議室において第6回柿田川シンポジウム『柿田川、「水」を見つめる。「水」を探る』が開催されました。柿田川生態系研究会のメンバーら5人が発表し、柿田川の有するユニークな特徴などについて意見交換が行われました。当日は、朝からの雨にも関わらず、柿田川の環境を保全してこられた地元の方々、柿田川の水を利用されている住民の方々、行政関係者、研究者など90名以上が参加され、柿田川やその川を構成する水、生態系に関する多様な側面からの発表に会場からも活発な質問が寄せられました。

【発表テーマ】

- ・「柿田川の自然をみつめる」(東京大学大学院・知花講師)
- ・「柿田川の動物群集を支える有機物の起源と特徴」
(京都大学防災研究所・竹門准教授)
- ・「柿田川底生魚類の動向、狩野川との関係」
(静岡淡水魚研究会・板井会長)
- ・「アユと川」(滋賀県立琵琶湖博物館・川那部館長)
- ・「世界の水、日本の水」(日本水フォーラム・竹村事務局長)

柿田川生態系研究会では、平成22年度に第7回柿田川シンポジウムを開催予定です。今年もたくさんの方々のご参加をお待ちしております。(詳細については、決定次第リバーフロント整備センターホームページ <http://www.rfc.or.jp/> 内でご案内します。)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 個人会員より、アメリカ・カリフォルニア州におけるこれまでで最大規模のダム撤去に関する報道記事情報を御提供頂きました。この英文記事の日本語仮訳資料もご提供頂きましたので、以下よりダウンロード可能です。(言語：日本語)

→<http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/04-0021.pdf>

また、本記事を扱ったオリジナルの英文ホームページは以下よりアクセス可能です。(言語：英語)

http://www.mercurynews.com/top-stories/ci_14168415?nclink_check=1



【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 団体会員である「社団法人日本河川協会」様から「河川文化を語る会」のイベント案内です。

【第 141 回】

- ◆テーマ：「メダカの生態に関する研究と啓発活動～山口県立厚狭高等学校生物部での取り組み」
- ◆講師：児玉 伊智郎氏（山口県立厚狭高等学校教諭・生物部顧問）
- ◆日時：平成 22 年 2 月 15 日（月）18:00～20:00
- ◆場所：厚生会館（全国土木建築健保）

【第 142 回】

- ◆テーマ：「川を活かし、水に親しむまちづくり」
- ◆講師：陣内 秀信氏（法政大学デザイン工学部教授）
- ◆日時：平成 22 年 3 月 15 日（月）18:00～20:00
- ◆場所：厚生会館（全国土木建築健保）

- ◆参加費：一般：500 円、
当協会二種正会員(個人会員)/学生：無料
- ◆申込/問合わせ：(社) 日本河川協会
TEL：03-3238-9771 FAX：03-3288-2426
E-mail：kataru@japanriver.or.jp
URL：<http://www.japanriver.or.jp/>

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 会員の方々が執筆もしくは共同執筆され、最近出版された書籍をご紹介します。



書名：観光まちづくりのエンジニアリング

監修：安島博幸
著者：国土総合研究機構
出版社：学芸出版社
発行年月：2009 年 11 月
価格：¥ 1,995 円
ISBN：978-4761512651

<http://www.a-rr.net/jp/book/professional/03/1794.html>



書名：河川の管理と空間利用

著者：吉川 勝秀（会員）
出版社：鹿島出版会
発行年月：2009 年 9 月
価格：¥ 3,570 円
ISBN：978-4306024137

http://www.a-rr.net/jp/book/professional/03_1/1740.html



書名：世界の統合的水資源管理

著者：田島正廣（会員）
出版社：みらい
発行年月：2009 年 5 月
価格：¥ 6,300 円
ISBN：978-4-86015-173-7

<http://www.a-rr.net/jp/book/professional/01/1277.html>



書名：GISで学ぶ日本のヒト・自然系

著者：大西文秀（会員）
出版社：弘文堂
発行年月：2009 年 3 月
価格：¥ 3,675 円
ISBN：978-4335750120

http://www.a-rr.net/jp/book/professional/02_1/1837.html

韓国河川再生ネットワーク(KRRN)より

■第 8 回生態水工学国際シンポジウム (ISE2010)

ARRN の韓国窓口組織である韓国河川再生ネットワーク (KRRN) 前事務局長・Hyoseop Woo 氏 (ISE2010 現地組織委員会委員長) より、2010 年 9 月に韓国・ソウル市で開催される「第 8 回生態水工学国際シンポジウム (ISE2010)」のご案内を頂きました。本年の「第 7 回 ARRN 国際フォーラム」は、本国際会議の特別セッションとして実施致します。日本からの多数のご参加をお待ちしております。

- ・開催時期：2010.9.12～16
- ・開催場所：韓国・ソウル市
- ・主催：韓国水資源協会

※詳細は以下参照（言語：英語）
→ <http://ise-2010.org/>

会議・イベント案内 (2010 年 2 月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■第 4 回 JRRN 河川環境ミニ講座「川づくりと住民参画の目的、河川環境と治水、防災の接点」

講師：山道 省三 氏 (特定非営利活動法人 全国水環境交流会 代表理事)

○開催日時：平成 22 年 2 月 23 日 (火) 15:00～17:00 (講演 1 時間、意見交換 1 時間程度を予定)

○開催場所：財団法人リバーフロント整備センター 会議室 ※2009 年 6 月に事務所が移転しています
(東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 ロフター中央ビル 7 階、電話：03-6228-3860)

地図はこちら→ <http://www.rfc.or.jp/map.html>

○定員：20 名 (先着順) ○参加費：無料 ○主催：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

○問合せ：(財)リバーフロント整備センター企画グループ 担当：沼田

(E-mail: info@arrn.net Tel: 03-6228-3860)

※ 申込方法等の詳細はこちら→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/4thJRRNseminar.pdf>

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■荒川流域再生シンポジウム

○日時：2010 年 2 月 11 日 (木) 10:00～16:30

○主催：NPO 法人荒川流域ネットワーク

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1823.html>

■流域環境圏を基にこの国の形を創る

○日時：2010 年 2 月 14 日 (日)

○主催：「流域環境圏を基にこの国の形を造る」シンポジウム実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1847.html>

■第 141 回 河川文化を語る会

○日時：2010 年 2 月 15 日 (月) 18:00～20:00

○主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1767.html>

■地域再生と国土づくりのコンセプト

○日時：2010 年 2 月 19 日 (金) 13:00～17:00

○主催：日本学術会議「国土と環境」分科会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1860.html>

■川の本質とこれからの治水計画のあり方

○日時：2010 年 2 月 22 日 (月) 18:00～

○主催：(社)建設コンサルタンツ協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/04/1859.html>

■第 142 回 河川文化を語る会

○日時：2010 年 3 月 15 日 (月) 18:00～20:00

○主催：社団法人日本河川協会

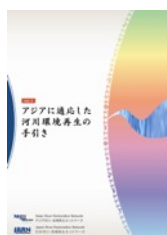
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1828.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1

(2009. 3 発刊)

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・価格：無料



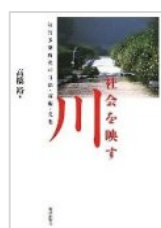
ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■社会を映す川ー災害多発時代の自然・技術・文化

(2009. 12 発刊)

- ・著者：高橋 裕
- ・出版社：鹿島出版会
- ・発行年月：2009 年 12 月
- ・価格：¥ 2,520 円 (税込)
- ・ISBN：978-4306094024



本書では、日本が長い歴史の中で培ってきた「土地と水の哲学」にふれながら、様々な川の姿から災害多発時代の日本と川の関わりについて述べられています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

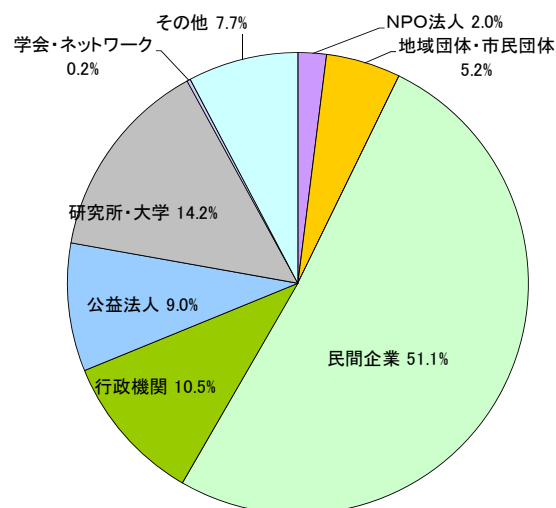
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することができます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2010 年 1 月 31 日時点の個人会員構成
(個人会員数：406 名、団体会員数：16 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフテ中央ビル7階

Tel: 03-6228-3860 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>